

# *Financial Report*

---

第77期中間事業報告書 2007.4.1~2007.9.30



# 第77期中間事業報告書 目次

3	株主のみなさまへ
4	営業の概況および業績の推移
5	部門別営業報告(連結)
7	連結貸借対照表
8	連結損益計算書
9	連結キャッシュ・フロー計算書
10	特集「第40回東京モーターショー2007に出展」
14	活動レポート
15	株主様工場見学会のご案内
16	単独貸借対照表(ご参考)
17	単独損益計算書(ご参考)
18	中間配当金/株式事項
19	役員



PHOTO: (左)レガシィ アウトバック 2.5i アーバン セレクション  
(中)レガシィ B4 2.5i アーバン セレクション  
(右)レガシィ ツーリングワゴン 2.5i アーバン セレクション

# 株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、第77期の中間事業報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期の連結決算につきましては、売上高は過去最高となり、利益面につきましては営業利益、経常利益は増益となったものの、前年同期に比べ固定資産売却益が減少したことなどにより当期純利益は減益となりました。

このような状況の中で、当中間配当につきましては、株主のみなさまに対する長期的安定配当の基本方針に基づき、1株につき4円50銭とさせていただきます。

当社は今年2月、「すべてはお客様のために」をキーワードとして、平成19年度から平成22年度までの4年間を対象とした新中期経営計画を策定いたしました。この新中期経営計画では、1.スバルらしさの追求、2.グローバル視点の販売、3.品質・コスト競争力の強化、4.トヨタ提携効果の拡大、5.人材育成と組織力の強化、の5項目を重点としており、現在、スバルグループ全員のベクトルを合わせて全力で取り組んでいるところでございます。

この取り組みの中では、企業活動の全ての局面において、従業員一人ひとりが常に「お客様のためになるか」を共通の判断基準としており、当社がご提案する商品の機能や価格、品質、サービスに対してお客様に共感していただき、スバルがお客様にとって真の意味でNo.1となれることを目指しております。

今年発売した新型「インプレッサ」は、お客様に直接接する販売のみならず、研究開発・購買・製造・品質・販売からアフターサービスにいたるまで、当社のすべての企業活動の視点を「お客様第一」に置いて取り組んだ成果の第一弾とも言えるものであり、今後も同様の取り組みによる新型車を次々と投入する予定でございますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年11月



代表取締役社長

森 郁夫

# 営業の概況および業績の推移

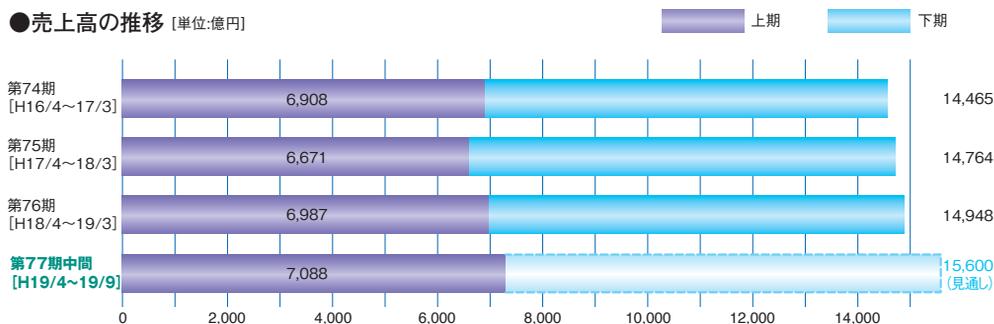
## [営業の概況(連結)]

自動車事業部門において、国内では6月に発売した新型「インプレッサ」の台数が増加したものの、他の車種の落ち込みをカバーできず、売上台数は前年同期を下回りました。一方、海外では全体の販売が堅調に推移したことに加え、欧州での新型「インプレッサ」の販売も貢献し、売上台数は前年同期を大きく上回りました。また、自動車以外の事業部門ではいずれも売上台数が前年同期を下回りました。これらの結果、連結売上台数は7,088億円と前年同期比101億円(1.5%)の増収となり、過去最高を記録しました。

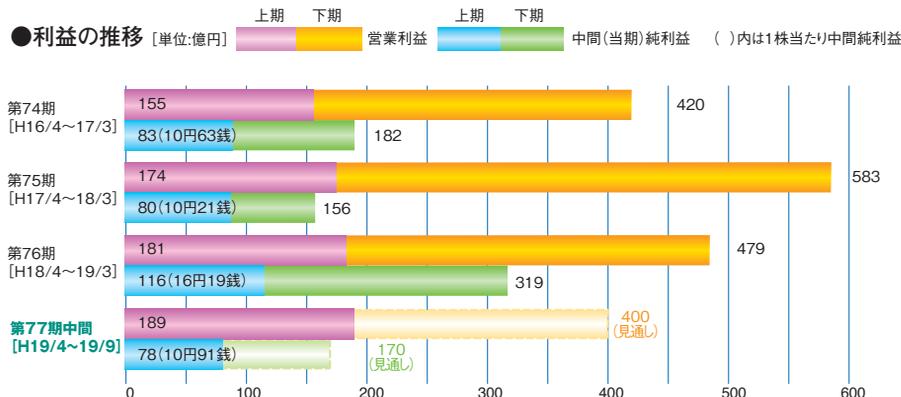
利益面につきましては、自動車事業部門における売上構成の悪化などがあったものの、円安による為替レート差に加え諸経費等の削減により、営業利益は189億円と前年同期比8億円(4.3%)の増益となり、経常利益につきましても142億円と前年同期比3億円(2.0%)の増益となりました。しかしながら当期純利益につきましては、前年同期に比べ固定資産売却益が減少したことなどにより、78億円と前年同期比38億円(32.5%)の減益となりました。

## [連結の業績および推移]

### ●売上高の推移 [単位:億円]



### ●利益の推移 [単位:億円]



# 部門別営業報告(連結)

## [自動車事業部門]

### 海外が好調に推移し、全体では増収

国内の登録車の販売につきましては、6月に発売した新型「インプレッサ」が大きく伸長したものの、フルモデルチェンジが期中であったこと、また、「レガシイ」や「フォレスター」が全体需要の落ち込みの影響を受けたこともあり、売上台数では35千台(前年同期比11.4%減)となりました。

一方、軽自動車につきましては、昨年6月に発売した「ステラ」の新車効果が一巡したことおよび軽貨物車需要が減少したことなどにより、売上台数は64千台(前年同期比11.3%減)となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は99千台(前年同期比11.3%減)となりました。

海外につきましては、北米市場の売上台数は、90千台(前年同期比0.7%増)となり、全体需要が減少するなか

堅調に推移しました。

欧州につきましては、新型「インプレッサ」の導入とロシアでの好調な販売が全体を牽引し、売上台数は38千台(前年同期比18.7%増)となりました。

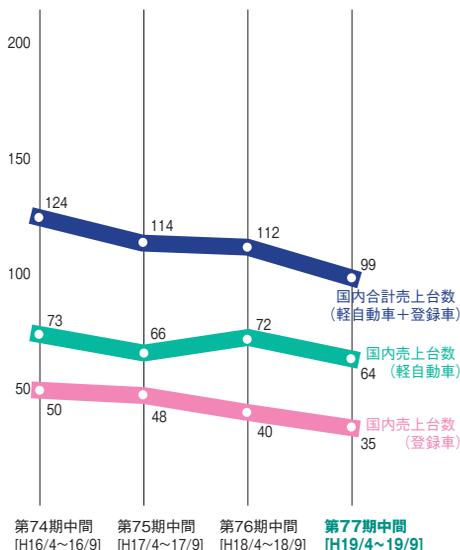
また、豪州につきましては、「フォレスター」の台数が減少したものの、新型「インプレッサ」および「トライベッカ」がこれをカバーし、売上台数は20千台(前年同期比0.6%増)となりました。

さらに、中国、シンガポール、中南米および中東の販売が好調に推移した結果、海外全体の売上台数は172千台(前年同期比9.8%増)となりました。

以上の結果、国内と海外を合わせた売上台数は271千台と前年同期比3千台(1.0%)の増加となり、全体の売上高は6,414億円と前年同期比190億円(3.0%)の増収となりました。

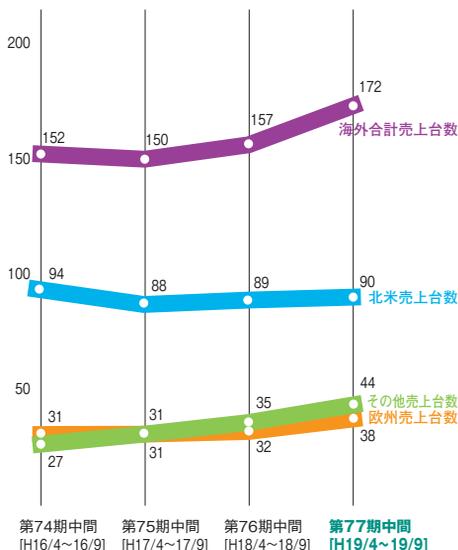
### ● 売上台数の推移(国内)

[単位:千台]



### ● 売上台数の推移(海外)

[単位:千台]



# 部門別営業報告(連結)

## 〔産業機器事業部門〕

### 国内、海外共に売上高減少

国内につきましては、全体需要の低迷などにより、土木建設機械用エンジンの販売が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

海外につきましては、欧州市場では、農業機械用エンジンの販売が伸長したことに加え、中東市場では、土木建設機械用エンジンの販売が好調であったことから、それぞれの市場で過去最高の売上高を記録しました。しかしながら北米市場では、レジャー用エンジンおよび発電機搭載用エンジンが低迷したことにより、海外の売上高は前年同期を下回りました。

また、富士ロビン株式会社を連結対象から外したことなどにより、全体の売上高は218億円と前年同期比54億円(20.0%)の減収となりました。

## 〔航空宇宙事業部門〕

### 民間向け製品の納入増加

防衛省向け製品では、戦闘ヘリコプター「AH-64D」や、無人標的機「ターゲットドローン」の売上増加があるものの、次期固定翼哨戒機・輸送機「PX/CX」の試作機納

入が終了段階を迎えて減少したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

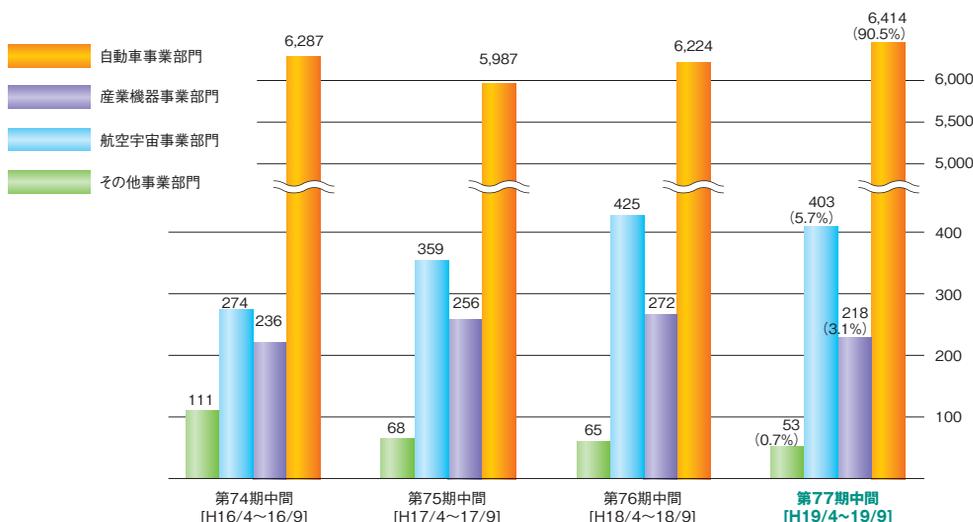
一方、民間向け製品では、「ボーイング777」の中央翼の納入機数が増加したことに加え、「ボーイング787」の中央翼の開発売上の増加、小型ビジネスジェット機「エクリプス500」および中型ビジネスジェット機「H4000」の主翼の納入機数増加などにより、売上高は前年同期を上回りましたが、防衛省向け製品の減少をカバーできず、全体の売上高は403億円と前年同期比22億円(5.1%)の減収となりました。

## 〔その他事業部門〕

### フジマイティーの売上台数増加

塵芥収集車「フジマイティー」は、新型の回転板式塵芥収集車「フジマイティー81シリーズ」において、2トン車ベースおよび3トン車ベースを5月から市場へ導入したことにより、売上台数は前年同期を上回りましたが、平成19年度をもって事業撤退する環境設備事業の売上高の減少に加え、輸送機工業株式会社の売上高を航空宇宙事業部門に組入れたことなどにより、全体の売上高は53億円と前年同期比12億円(18.8%)の減収となりました。

## ●部門別売上高の推移 [単位:億円] ( )内の数字は、第77期中間の部門別売上高構成比です。



# 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	第77期中間	第76期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	47,705	52,406
受取手形及び売掛金	93,892	99,290
有価証券	25,644	32,017
たな卸資産	247,470	224,919
繰延税金資産	25,471	27,072
短期貸付金	99,869	101,184
その他	55,481	59,501
貸倒引当金	△ 1,509	△ 1,713
<b>流動資産合計</b>	<b>594,023</b>	<b>594,676</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	129,207	129,280
機械装置及び運搬具	122,104	122,828
土地	178,087	174,835
建設仮勘定	19,094	18,335
リース資産	63,992	59,896
その他	40,767	45,410
<b>有形固定資産合計</b>	<b>553,251</b>	<b>550,584</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	20,075	19,092
その他	14,878	16,100
<b>無形固定資産合計</b>	<b>34,953</b>	<b>35,192</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	84,358	85,819
長期貸付金	3,011	3,696
繰延税金資産	21,139	20,825
その他	30,861	28,472
貸倒引当金	△3,197	△3,223
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>136,172</b>	<b>135,589</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>724,376</b>	<b>721,365</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,318,399</b>	<b>1,316,041</b>

科目	第77期中間	第76期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	201,915	190,394
短期借入金	174,621	172,454
コマーシャルペーパー	—	11,000
一年内償還社債	30,000	10,000
未払法人税等	6,532	4,572
未払費用	55,683	55,789
賞与引当金	15,631	15,247
製品保証引当金	23,861	23,934
その他	84,066	80,277
<b>流動負債合計</b>	<b>592,309</b>	<b>563,667</b>
<b>固定負債</b>		
社債	60,000	90,000
長期借入金	52,162	60,400
土地再評価に係る繰延税金負債	—	703
退職給付引当金	46,069	45,516
役員退職慰労引当金	664	987
債務保証損失引当金	745	745
負ののれん	—	821
その他	60,602	57,499
<b>固定負債合計</b>	<b>220,242</b>	<b>256,671</b>
<b>負債合計</b>	<b>812,551</b>	<b>820,338</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,100	160,104
利益剰余金	219,811	214,831
自己株式	△40,518	△40,511
<b>株主資本合計</b>	<b>493,188</b>	<b>488,219</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	22,043	22,182
土地再評価差額金	—	290
為替換算調整勘定	△10,399	△16,687
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>11,644</b>	<b>5,785</b>
少数株主持分	1,016	1,699
<b>純資産合計</b>	<b>505,848</b>	<b>495,703</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,318,399</b>	<b>1,316,041</b>

[注]百万円未満四捨五入

# 連結損益計算書

単位:百万円

科目	第77期中間	第76期中間
	自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日	自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日
売上高	708,817	698,676
売上原価	538,442	524,042
売上総利益	170,375	174,634
販売費及び一般管理費	151,470	156,508
営業利益	18,905	18,126
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,533	1,815
負ののれん償却額	—	1,087
デリバティブ評価益	702	—
持分法による投資利益	14	728
その他	2,206	2,232
営業外収益合計	5,455	5,862
営業外費用		
支払利息	2,088	1,915
為替差損	5,304	—
デリバティブ評価損	17	246
その他	2,789	7,944
営業外費用合計	10,198	10,105
経常利益	14,162	13,883
特別利益		
固定資産売却益	1,024	6,060
投資有価証券等売却益	1,412	6
前期損益修正益	1,567	1,451
貸付債権譲渡益	280	—
その他	107	71
特別利益合計	4,390	7,588
特別損失		
固定資産売却・除却損	1,207	2,924
投資有価証券等評価損	—	284
減損損失	1,593	108
関係会社整理損	—	857
特別損失合計	2,800	4,173
税金等調整前中間(当期)純利益	15,752	17,298
法人税、住民税及び事業税	5,706	4,273
法人税等調整額	2,220	1,351
少数株主利益	—	(減算)70
少数株主損失	(加算)6	—
中間(当期)純利益	7,832	11,604

[注]百万円未満四捨五入

# 連結キャッシュ・フロー計算書

## ●キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金および現金同等物(以下「資金」という。)は、1,060億円と前連結会計年度末に比べ69億円の増加となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金は、たな卸資産が227億円増加したものの、税金等調整前中間純利益158億円および減価償却費417億円等の計上に加え、仕入債務の増加額143億円等により620億円となり、前年同期比619億円の増加となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動により支出した資金は、有形固定資産の取得による支出(売却による収入との純額)316億円およびリース資産の取得による支出(売却による収入との純額)110億円等がありましたが、貸付金の回収による収入(貸付による支出との純額)186億円等により263億円となり、前年同期と同水準となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は、コマーシャルペーパー純減額110億円、社債償還による支出100億円および短期借入金の純減額60億円等により320億円となり、前年同期比234億円の資金の減少となりました。

## ●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

科目	第77期中間	第76期中間
	自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日	自 平成18年4月 1日 至 平成18年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,004	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 26,295	△ 26,289
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 32,044	△ 8,693
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,064	△ 1,146
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	6,729	△ 36,057
現金及び現金同等物期首残高	99,060	112,366
連結範囲の変更に伴う増加額	190	—
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	105,979	76,309

[注]百万円未満四捨五入

先進技術と魅力的な価値提案で、お客様に感動の瞬間を。

# 第40回 東京モーターショー 2007に出展

本年10月26日～11月11日、千葉市・幕張メッセにおいて第40回東京モーターショー2007が開催されました。当社は「Fantastic moments」をテーマに、「快適・信頼の走り」と地球の環境の融合」を実現するためのコンセプトモデルや、次世代の環境技術を出展しました。「スバル360」の発表から来年で50周年を迎える今、より多くのお客様に感動の時間、瞬間を提供するために進化を続ける、富士重工業の挑戦をご紹介します。

## SUBARU CONCEPT MODEL



### EXIGA CONCEPT

(エクシーガ・コンセプト) [参考出品車]

爽快な走りと開放感を提案する、7名乗りのコンセプトモデルです。大型のガラスサンルーフを採用し、どのシートに座っても見晴らしの良い快適な室内空間を楽しむことができます。走りの面でもスバル独自のシンメトリカルAWDに加え、新開発のシャシーにより、大人7名が乗車しても、気持ちの良い走りを実現した、全く新しい7シーターを提案します。



**NEWS**

## スバルが提案する「新しいAWDスポーツのカタチ」 新型インプレッサ WRX STI 誕生



10月24日の東京モーターショープレスデーにて、新型インプレッサWRX STIのワールドプレミア(世界初披露)が行われました。新型インプレッサWRX STIは、圧倒的な走りのパフォーマンスに磨きをかけることはもちろん、安全性、快適性、環境性も高いレベルでバランスさせています。「操る喜び」「所有する喜び」をさらに高め、より幅広い層のお客様へ訴求する商品へと進化しました。

## これまでにない価値を提案する、コンセプトモデル



### G4e CONCEPT

(ジーフォーイー・コンセプト) [参考出品車]

地球環境に配慮した、コンパクトな電気自動車です。動力には、当社が独自に開発した次世代リチウムイオンバッテリーを搭載。軽量化や、電気効率の向上技術を追求し、1回の充電で約200kmの走行を可能にしました。家庭用電源から約8時間で100%の充電ができます。当社は今後人も環境に優しいクルマ作りを推進していきます。



G4e コンセプト 充電イメージ

# Technology Exhibit

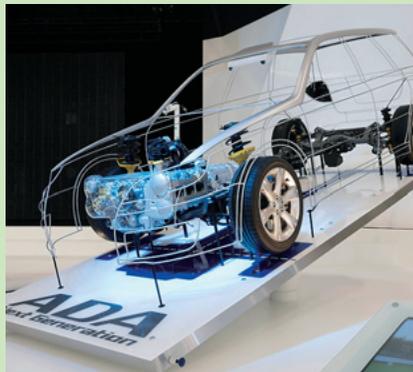
安全・快適なカーライフを提供する、次世代の技術

## 次世代ADA

(アクティブドライビング・アシスト) [技術展示]

ふらつき警報や車線逸脱警報など、従来からの機能に「スバルアドバンスドプリクラッシュセーフティシステム(仮称)」を加え、安全性能をより向上させているのが特徴です。

今回出展された「次世代ADA」は、2008年からレガシィに搭載し国内での発売が予定されています。



## スバルアドバンスドプリクラッシュセーフティシステム(仮称)

このシステムは、新型の「ステレオカメラ」がクルマだけでなく、自転車や歩行者も検知します。通常走行時から渋滞時まで警報やブレーキ制御により事故の回避や被害の軽減を支援します。また走行中だけでなく、ペダルの踏み間違えなどによる誤発進時にも至近距離にある対象物を検知し速度を低減させます。さらに全速域追従クルーズコントロールにより、運転者が設定した車速と車間距離を維持します。



新ステレオカメラ(開発用試作品)



割り込み車検知の例

歩行者・自転車の認識例

## 水平対向ターボディーゼルエンジン [技術展示]

世界初となる乗用車用水平対向ディーゼルエンジンも出展されました。水平対向とディーゼル双方の特性を最大限に活かし、走りと環境性・経済性を備えたエンジンとして、2008年に搭載車を欧州市場で発売予定です。



# SUBARU NEW MODEL

ライフスタイルを楽しく広げる、ニューラインアップ

## インプレッサ BEAMS EDITION (ビームス・エディション)



ファッション分野で、常に新しい提案を続けるセレクトショップ「ビームス」とのコラボレーションモデルです。ボディには「ビームス」のブランドカラーであるオレンジを採用。装備や内装にも「ビームス」のエッセンスを施し、ハッピーな気分になれるクルマとして開発された、話題性のあるモデルです。

## レガシィ アウトバック Urban selection (アーバン セレクション)

人気のレガシィ アウトバックに、「新たなグランドツーリングの世界観の実現」をコンセプトとした様々な専用仕様を施しました。鮮やかなライトニングレッドのボディカラー。本革とアルカンターラを組み合わせたブラックのシートで、上質な室内空間を演出。熟成を重ねた4代目レガシィに新たな価値をプラスし、商品力を高めました。

※アルカンターラ®はAlcantara S.p.A.の登録商標です。



## ステラ REVESTA (リベスタ)



今春の東京オートサロンに出品した、カスタマイズカーの市販化モデルです。メッキタイプのフロントグリルや、ブロンズ色の内装パネルなど専用パーツを装備。ステラ、ステラカスタムに続く第3のステラとして、「ラグジュアリースタイル」をテーマに開発されました。人とは違う個性を求める層に強くアピールします。

## スバルR1eを使った電気自動車実証試験に 神奈川県が参画

当社が東京電力株式会社と共同で進めている業務用車両に適した電気自動車の実証試験に、このたび神奈川県が参画することとなり、9月6日に神奈川県庁にて、試験車両となる「スバルR1e」の引き渡し式が行われました。

今後は、県庁や出先機関において現地調査業務などでご利用いただくほか、各種イベントにおける展示や体験試乗でご活用いただきます。



PHOTO:9月6日に行われた「SUBARU R1e」引渡し式の様子。

## 第62回フランクフルトモーターショーで 新型ジャスティを発表

当社は9月11日～23日にドイツ・フランクフルトで開催された第62回フランクフルトモーターショーにおいて新型「ジャスティ」を発表しました。

新型「ジャスティ」はスバルのエントリーモデルとして1.0ℓエンジン搭載の2タイプを用意し、いずれもFF・5速マニュアルトランスミッションのみの設定となります。このジャスティはダイハツ工業からのOEMにより供給され、欧州市場のみでの販売となります。



PHOTO:フランクフルトショーに出展された「ジャスティ1.0S」。

## 屋外型清掃ロボットシステムを実用化、 サービスロボット市場を拡大

当社と住友商事株式会社は、事業化に取り組んでいるエレベータ連動清掃ロボットシステムに、マンションでの使用を目的とした「屋外型」を新たに開発・実用化しました。

本システムは自律式の無人清掃ロボットがエレベータを使いマンションの各階を独力で移動しながら、廊下や共有スペースなどの床面を清掃するものです。すでにオフィスビルで運用されている「屋内型」をベースに、雨風にさらされる屋外での使用に適応させるために新設計を施しました。初号機は大和ハウス工業株式会社の協力により、都内の新築賃貸マンションに納入され、運用を開始しております。



PHOTO:都内のマンションで稼働する屋外型清掃ロボット。

# 株主様工場見学会のご案内

今年度も株主様向けの工場見学会を開催いたします。ご同伴者様にもご見学いただけますよう、応募人数を60組120名様とさせていただきます。当社自動車事業部門の主力生産拠点である矢島工場と、同工場内の「スバル ビジターセンター」をご見学いただきます。



PHOTO:前回の工場見学会の様子

## ●ご見学日時

平成20年3月20日(祝日) 11:00～16:00予定

## ●ご見学場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター  
所在地:群馬県太田市庄屋町1-1

## ●生産品目

レガシィ、インプレッサ、フォレスター

## ●ご集合場所

東武伊勢崎線太田駅(浅草から特急りょうもう号で約1時間20分)

- ①当日は、東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。
- ②お車でお越しの株主様は矢島工場に直接おいでください。
- ③当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

## ●ご見学会人数

60組120名様とさせていただきます。(株主ご本人様とご同伴者1名様)

- ①ご希望者多数の場合は、誠に勝手ながら新規お申し込みの株主様を優先し、抽選とさせていただきますので、ご了承ください。
- ②当選、落選に関しましては、株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には、当日の詳細をご案内いたします。

## ●お申込方法

官製ハガキに、株主様およびご同伴者様の①郵便番号②住所③お名前④交通手段(電車・車・その他)⑤電話番号⑥携帯電話番号⑦ご同伴者様とのご関係をご記入の上、以下の宛先までお送りください。

平成20年1月11日(金)の到着分をもって締め切りとさせていただきます。

## ●宛先

〒160-8316 東京都新宿区西新宿1-7-2  
富士重工業(株)総務部「株主様工場見学会」係  
TEL 03-3347-2012  
ご不明な点は上記にお問い合わせください。

## 個人情報取扱について

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は、①本見学会の抽選、②当日の詳細に関するご連絡、③ご参加状況の確認、にのみ使用させていただきます。当社が責任を持って管理し、使用後は廃棄いたします。また、いただいた個人情報を第三者に提供することはありません。

# 単独貸借対照表(ご参考)

単位:百万円

科目	第77期中間	第76期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	13,280	24,774
受取手形	1,678	1,784
売掛金	99,534	107,612
有価証券	8,502	2
製品	29,794	27,072
原材料	14,877	12,877
仕掛品	95,052	81,119
貯蔵品	1,338	1,235
前渡金	12,495	13,366
前払費用	4,143	2,800
繰延税金資産	15,049	16,025
短期貸付金	84,839	73,994
未収入金	22,039	24,495
その他	3,297	2,535
貸倒引当金	△ 391	△ 469
<b>流動資産合計</b>	<b>405,526</b>	<b>389,221</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	52,974	54,034
機械装置	69,320	73,144
工具器具備品	11,426	12,296
土地	86,285	83,634
その他	24,624	17,327
<b>有形固定資産合計</b>	<b>244,629</b>	<b>240,435</b>
<b>無形固定資産</b>		
特許権	86	94
借地権	11	11
商標権	5	6
ソフトウェア	11,372	12,557
その他	395	860
<b>無形固定資産合計</b>	<b>11,869</b>	<b>13,528</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	55,051	55,280
関係会社株式	142,975	143,252
出資金	8	8
関係会社出資金	1,983	1,056
長期貸付金	5	5
従業員長期貸付金	126	128
関係会社長期貸付金	33,900	44,600
破産・更正債権等	6,532	6,452
長期前払費用	1,653	1,931
繰延税金資産	3,506	3,257
その他	2,121	2,121
投資評価引当金	△ 364	-
貸倒引当金	△ 10,338	△ 9,992
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>237,158</b>	<b>248,098</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>493,656</b>	<b>502,061</b>
<b>資産合計</b>	<b>899,182</b>	<b>891,282</b>

科目	第77期中間	第76期
	平成19年9月30日現在	平成19年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形	3,334	3,941
買掛金	179,435	166,929
短期借入金	17,547	17,548
一年内償還社債	30,000	10,000
未払金	13,889	18,744
未払費用	23,790	29,111
未払法人税等	5,093	3,239
前受金	12,137	6,254
預り金	2,549	960
前受収益	187	181
賞与引当金	10,301	10,076
役員賞与引当金	-	92
製品保証引当金	6,722	7,520
その他	664	1,401
<b>流動負債合計</b>	<b>305,648</b>	<b>275,996</b>
<b>固定負債</b>		
社債	60,000	90,000
長期借入金	23,723	23,727
退職給付引当金	28,693	27,651
役員退職慰労引当金	-	200
債務保証損失引当金	745	745
その他	9,952	8,940
<b>固定負債合計</b>	<b>123,113</b>	<b>151,263</b>
<b>負債合計</b>	<b>428,761</b>	<b>427,259</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,116	160,120
資本準備金	160,071	160,071
その他資本剰余金	45	49
利益剰余金	175,970	169,455
利益準備金	7,901	7,901
土地圧縮積立金	719	719
別途積立金	85,335	85,335
繰越利益剰余金	82,015	75,500
自己株式	△ 40,484	△ 40,477
<b>株主資本合計</b>	<b>449,397</b>	<b>442,893</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	21,024	21,130
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>21,024</b>	<b>21,130</b>
<b>純資産合計</b>	<b>470,421</b>	<b>464,023</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>899,182</b>	<b>891,282</b>

[注]百万円未満四捨五入

# 単独損益計算書(ご参考)

単位:百万円

科目	第77期中間	第76期中間
	自 平成19年4月 1日 至 平成19年9月30日	自 平成18年4月 1日 至 平成18年9月30日
売上高	480,870	482,537
売上原価	390,073	390,759
売上総利益	90,797	91,778
販売費及び一般管理費	73,412	73,111
営業利益	17,385	18,667
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,669	1,413
デリバティブ評価益	702	—
その他	2,495	2,529
営業外収益合計	4,866	3,942
営業外費用		
支払利息	885	793
為替差損	4,562	—
デリバティブ評価損	—	246
その他	2,447	7,910
営業外費用合計	7,894	8,949
経常利益	14,357	13,660
特別利益		
固定資産売却益	920	132
前期損益修正益	—	1,451
投資有価証券等売却益	1,584	—
貸倒引当金戻入額	—	0
投資評価引当金戻入額	—	8
その他	6	—
特別利益合計	2,510	1,591
特別損失		
固定資産売却・除却損	1,003	712
投資有価証券等評価損	—	742
減損損失	—	39
貸倒引当金繰入額	272	2,523
債務保証損失引当金繰入額	—	159
投資評価引当金繰入額	364	382
関係会社整理損	—	1,807
その他	72	—
特別損失合計	1,711	6,364
税引前中間(当期)純利益	15,156	8,887
法人税、住民税及び事業税	4,608	3,353
法人税等調整額	799	△ 658
中間(当期)純利益	9,749	6,192

[注]百万円未満四捨五入

# 中間配当金

平成19年10月31日開催の取締役会において、当社定款第48条にもとづき、平成19年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決議しました。

1. 中間配当金1株につき 4円50銭
2. 支払請求権の効力発生日および支払開始日 平成19年11月30日

## 株式事項

平成19年9月30日現在

### ●株式の総数

発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 782,865,873株

[注]当期中の増加 0株

●株主数 56,547名

### ●大株主

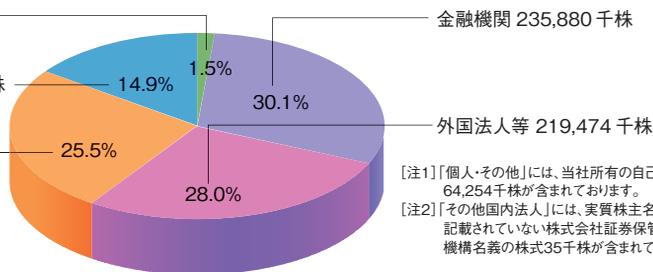
株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	68,000	8.69
富士重工業株式会社	64,255	8.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	41,167	5.26
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブ アカウト アメリカン クライアント	38,558	4.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	21,403	2.73
ヒーロー・アンド・カンパニー	20,693	2.64
日本生命保険相互会社	15,986	2.04
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテド パンション ファンズ	15,287	1.95
スズキ株式会社	13,690	1.75
株式会社みずほコーポレート銀行	12,362	1.58

### ●株式の分布状況 合計782,865千株

証券会社 11,445 千株

その他国内法人 116,391 千株

個人・その他 199,675 千株



[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式64,254千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、実質株主名簿に記載されていない株式会社証券保管振替機構名義の株式35千株が含まれております。

# 役員

平成19年9月30日現在

代表取締役社長	森 郁夫	執行役員	芹澤洋一
代表取締役副社長	小松 熙	執行役員	清水一良
代表取締役兼専務執行役員	高木俊輔	執行役員	鴨川珠樹
取締役兼専務執行役員	及川博之	執行役員	木村正一
取締役兼専務執行役員	松尾則久	執行役員	池田智彦
取締役兼専務執行役員	奥原一成	執行役員	日月丈志
取締役兼専務執行役員	鷺頭正一	執行役員	永野 尚
取締役兼専務執行役員	長門正貢	執行役員	高橋 充
		執行役員	野村元清
常務執行役員	近藤 潤	執行役員	宮脇基寿
常務執行役員	石原 卓	執行役員	笠井雅博
常務執行役員	星 恒憲	執行役員	荒井直人
常務執行役員	蓮沼愛雄	執行役員	上野康男
常務執行役員	武藤直人		
常務執行役員	吉永泰之	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	馬淵 晃	☆常勤監査役	谷代正毅
		常勤監査役	石丸雍二
		☆監査役	田代守彦

[注] ☆印は社外監査役であります。

## [株主メモ]

決算期日 3月31日  
基準日  
・定時株主総会の議決権 3月31日  
・期末配当 3月31日  
・中間配当金 9月30日  
定時株主総会 6月中  
株主名簿管理人  
東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所  
東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部  
[郵便物送付先・電話お問合せ先]  
〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-288-324 [フリーダイヤル]  
同取次所  
みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

## [会社の概要]

社名 富士重工業株式会社  
英文社名 FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.  
創立 昭和28年7月15日  
資本金 1,537億9,527万円  
従業員数 12,874名  
主要製品 普通・小型自動車、軽自動車、  
航空機、汎用エンジン、環境車両  
本社 〒160-8316  
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
代表電話 03-3347-2111

表紙の写真はインプレッサ WRX STI



PHOTO:(左)ステラ LX、(右)ステラカスタム R

## 富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
電話 03-3347-2111

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>